

2019年2月28日

中野区長 酒井直人 様  
教育委員会事務局 子ども教育施設整備ご担当

公益社団法人 日本建築家協会  
関東甲信越支部 中野地域会  
代表 小西 敏正

## 区立小中学校の計画・設計に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥のことと拝察し、お慶び申し上げます。

さて、貴区では4つの学校につき、2023年度の新校舎開設をめざして、3月いっぱいそれぞれの基本構想と基本計画を定めるべく、各案を先月、公開されました。

それらの案を構成する要素のうち、各案に添付されている各校舎の配置や各階平面の検討図について、以下の3点を要望いたしますので、ご高配ください。

1. 校舎の配置や各階平面は、検討図の他にも、実現可能な別案が多様に必ず存在しますので、それらの中での優劣は複数の案を比較して初めて明確になります。したがって基本計画を3月末に定めるにあたっては、複数案をその中に示すべきです。  
今後の基本設計段階においても、常に複数の可能性に遡って比較検討し、またその比較においては、区民・教員・保護者の意見も取り入れるようにして下さい。
2. 基本設計段階において、あるいは可能ならそれ以前から、建築学における学校分野の専門家を監修者に迎えて、その知見を得るようにして下さい。その上で、入札ではない、能力のある建築家への業務委託を主眼とした発注方式を必ず採用して下さい。学校建築は未来を背負う世代の空間体験すなわち文化享受の場ですから、価格の多寡で設計者を決めるのではなく、教育空間の文化的な質を確保することを最優先して下さい。
3. 特に平和の森小学校においては、東京都の文化財指定をめざす旧中野刑務所正門につき、その貴重な文化財としての意義や建築物としての価値を、見学者だけでなく、生徒にも、校舎での生活の中で感得させることが意義深く、かつ重要です。基本計画案においてはこの点が欠けていますので、上記1に求めた複数案の検討において、このことを十分に採り入れるよう、求めます。この文化財に込められた設計者の深い愛情の意味を皆が汲み取れるような施設面での配慮が、中野区の文化醸成にとって肝要ですし、それは教育の、そして教育委員会の任務の一環と考えます。

以上のために、公益社団法人の枠組みの中で弊社として貴区に協力させて頂けることがあれば、ぜひ、お申し付け下さるよう、お願い申し上げます。

敬具